

御坊市文化賞 受賞者紹介

秘書室 ☎0738-23-5536

市では、文化の発展に貢献された方をたたえ、一層のご活躍を願って文化賞の贈呈を行っています。
今年は、古久保恭一氏、原多美男氏の2人が文化賞の栄に輝かれました。



ふるくぼ きょういち
古久保 恭一氏

古久保氏は、家業である蒲鉾製造会社（株）丸福で170年以上続く伝統ある製法を今もなお受け継ぎ営む傍ら、関連会社として舞台音響照明や仮設舞台、イベント企画などを行う（有）ジーエフシーを運営。

観光産業、郷土文化の発掘や顕彰で今までにない観光資源を模索していた時期、梅原猛氏著作「海女と天皇」が刊行されたことにより藤原宮子（みやこ姫）が活気づき、平成4年に御坊市観光協会を設立。平成22年には会長に就任し現在に至っている。市制40周年に行った宮子姫まつりでの時代行列を始め、宮子姫音頭の作曲や九海女の里での髪供養祭など宮子姫にちなんだ企画を次々と試みた。

また、ふるさと創生事業では、実行委員長として、新成人に心に残るコンサートを実施。以後、開催された歌謡フェスやミュージックフェスも併

せ、本格的な音響、照明、大型スクリーン等を提供し大いに盛り上げた。そして、宮子姫みなとフェスタやSio トープ子どもまつりなど市主催のイベントでは、積極的に音響照明や舞台設営に協力してきたほか、人脈を生かし飛行機仲間の室屋義秀氏を10年間招へいし、イベントの目玉としてアクロバット飛行を定着させた。そのほか、みやこ姫よさこい祭りの実行委員長を務めており、いこらDE フェスティバル開始当初から企画運営に参画、会場やプログラムに試行錯誤しながらも、現在では県内から多くの人が集い賑わう大イベントとして見事に定着させている。

このように、宮子姫伝説の伝承や振興を中心に、多岐にわたり地域文化発展に大きく貢献されています。



はら たみお
原 多美男氏

原氏は、昭和29年3月に和歌山大学学芸学部を卒業、平成4年3月に大成中学校校長を最後に定年退職されるまで常に教育に対して高い理想と未来への展望をもって、教育実践に精魂を傾けた。平成4年10月には御坊市教育委員会教育長に任命され、以降平成12年9月に勇退するまでの間、校舎の大規模改修や幼稚園舎の空調設備など教育施設の整備に積極的に取り組んだ。平成17年には長年にわたる学校教育の功績に対し瑞宝双光章を受けている。

文化活動においては、平成15年に戯瓢踊（けほんおどり）保存会へ入会、平成23年には会長に就任。平成30年に退任するまでの間、戯瓢踊りを後世に残すべく踊りや衣装の着付けの映像化を始め、寺内町会館に踊りの衣装や道具を展示したほか、平成25年の全国民族芸能大会に参加し関東

地方で初めて戯瓢踊りを披露するなど県内外の民芸公演に積極的に参加し、400年以上の歴史を持ち県指定無形文化財第1号、国の選択芸能に指定されている戯瓢踊りの継承と振興に尽力された。このような活動が認められ、同会に対し平成25年に和歌山県教育委員会功労賞、平成30年には和歌山県教育功労者知事感謝状が贈られている。

また、平成20年には御坊市文化協会会長に就任。平成24年には創立50周年記念式典や展示・舞台発表など盛況のもと開催したほか、まちかどミュージアムでは長年一日の空白もなく展示するなど、市民が芸術作品等に接する機会を設け振興に努めた。

このように、氏は長きにわたり文化財の振興、地域の文化向上に大きく貢献されています。